

第326号 平成24年1月

東京都農業会議情報

編集及び発行 東京都農業会議

渋谷区代々木2-10-12
TEL 03-3370-7145

新年にあたって

東京都農業会議 会長 波多野重雄



新年、明けましておめでとうございます。

昨年は3・11東日本大震災と、震災に起因する福島原発事故の対応に終始し、また政権も菅総理から野田総理に引き継がれTPP交渉に参加表明がなされるなど、日本農業にとって大変な年でありました。

本年こそは災害からの復興と、日本農業の活性化が強く望まれますが、併せて都市計画法の改正に道筋をつけて都市農業の夜明けが実感できる年にしたいと存じます。

また、新たに策定される「東京都農業振興プラン」によって東京農業の明るい未来

意欲ある農業経営者の支援と

東京の農地保全をめざして

農業委員会活動推進フォーラム開く

都農業会議は、このほど府中市生涯学習センターにおいて、農業委員会活動推進フォーラムを開きました。

このフォーラムは「意欲



挨拶を述べる肥沼和夫都農業会議副会長

ある農業経営者の支援と東京の農地保全をめざして」をテーマに、今後の都市計画制度見直しの具体的な検討が想定される中で、認定農業者などの支援と都市農地の保全制度の提案に向け、的確な情報を把握するため実施しました。

フォーラムの内容は左記のとおりです。

情勢報告

「都市計画制度小委員会の検討状況」について（国土交通省都市計画課 村田英樹 企画専門官）

新島村で「芋フェスタ2011」開く

遊休農地解消と島外出荷を目指す

新島村と同村農業委員会（大沼光吉会長）は、このほどふるさと東京むらづくり塾（波多野重雄塾長）と共催で、アメリカ芋の収穫祭「芋フェスタ2011」を開きました。

アメリカ芋は新島で古くから親しまれているサツマイモで、芋フェスタは遊休農地解消と島外出荷を目標として開かれました。

今年で3回目を迎え、年末のイベントとして定着し

生産緑地制度や委員会の検討状況などについて報告しました。

問題提起

「東京農業の現状と都市農地保全の課題」（都農業会議）

都内の認定農業者の状況などについて説明しました。

講演

①東京都農林・漁業振興対策審議会の答申について（東京都農業振興課 永塚誠課長 補佐）

答申の内容などについて説明しました。

②「農の風景育成地区」制度の概要について（東京都緑地景観課 大瀧伸生係長）

制度の意義や検討経過について説明しました。

ており、多くの人でにぎわっていました。



アメリカ芋を囲み、芋談義をする参加者

第53回東京都農業委員・農業者大会を開きます

都農業会議と農委会地区協議会・連合会は「第53回東京都農業委員・農業者大会」を平成24年2月29日（水）午後1時より昭島市民会館で開きます。

大会では、国に対する「東京農業の確立に関する要望」「都市農業の振興と都市農地保全に関する要望」

と平成24来年度に向けて「農業委員会活動の積極的推進」について協議します。

さらに、記念行事として、第51回企業の農業経営顕彰、第31回農業後継者顕彰、第38回農業委員会等功

労者表彰を行います。積極的なご参加をお願いいたします。

東日本大震災からの復興や TPP交渉参加撤回を求める要請など決議

全国農業委員会会長代表者集会

全国農業会議所（二田孝治会長）の主催により、このほど、全国農業委員会会長代表者集会が千代田区の砂防会館で開かれました。

第一部では、元食糧庁長官で弁護士の高木賢氏が「農業委員会のさらなる取り組みに期待する」をテーマに講演したほか、仙台市農業委員会の復興に向けた取り組みなど、農業委員会活動の事例発表が行われました。

第二部では「東日本大震災からの復興と食と農業の再生に向けた要請」および「TPP交渉参加撤回を求める要請」の二つの要請、また「地域に根ざした農業委員会活動のさらなる取り組みに関する申し合わせ」お



大会では、農業委員会活動の事例発表や要請・申し合わせの決議が行われた

よび「情報提供活動の一層の強化に関する申し合わせ」がそれぞれ決議されました。東京からは17区市の農業委員会会長が出席し、集会終了後には東京選出の国会議員に対して要請活動を行いました。

常任会議員会議だより

第9回常任会議員会議

平成23年12月16日に開催。状況は次のとおり。

議事

農地法の規定に基づく知事諮問は、第5条2件584mを審議し、許可相当として答申することを決定した。

協議

来年2月29日（水）開催の「第53回東京都農業委員・農業者大会開催要領」を決定した。

農地管理・流動化推進月間の状況について、区市町村の取り組みを説明し、第1号常任会議員（農業委員会会長）から具体的な活動と

農業者年金の加入推進を！

農業者年金制度推進研究会開く

都農業会議は、11月29日に南新宿ビルにて、農業者年金制度推進研究会を開き、農業者年金推進員（農業委員）など約40人が出席しました。研究会では、加入推進活動



農業者年金の受給者としての経験を話す川鍋青梅市農委会長

埼玉県三芳町の農業施策など研究

都農委会職員現地研究会開く

都農業会議は、11月28日に、都農業委員会職員研究会（鈴木誠会長・多摩市）と共催で、埼玉県三芳町にて、農委会職員現地研究会を開きました。研究会では、まず三芳町役場にて、三芳町の農業・農業

都内7区で農委会職員検討会開く

東京都農業会議

都農業会議は、都内7区で農委会職員検討会を開き、

農委会活動や農地事務などについて検討を進め、島しょ地区では、現地研究をしました。

課題への対応などについて報告がされた。

当面の農政問題では、平成24年度税制改正大綱の概要について説明した。

説明

農業者年金基金の中園理事長が「農業者年金制度をめぐる情勢と課題」を説明した。



島しょ農委会検討会では、長野県木島平村のアンテナショップ「新鮮屋」（調布市）を現地研究した



三芳町農業委員会の武田委員より特産の「富の川越いも」の生産・販売状況を知る

意見交換では、農地利用状況調査の実施方法について、また、武田委員では、特産の「富の川越いも」の生産・販売手法などについて、質疑応答などを行いました。

東京における新規就農を研究

非農家出身で新規就農した若者が パネルディスカッション

東京都新規就農フォーラム開く

アグリタウン研究会（後藤光蔵座長）と都農業会議は、12月3日、「東京における新規就農」をテーマとするフォーラムを武蔵大学（練馬区）において開きました。

西多摩地域では農業委員会の協力のもと、非農家出身の若者が農地の利用権設定をし就農するケースが出てきていることから、東京における新規就農の展望などについて研究しようとしたものです。

このフォーラムには、新規就農を目指す若者をはじめ、農業者や流通関係者、研究者、行政関係者など多方面から約80人が参加しました。前半は、新規就農をめぐる



新規就農を目指す若者や農業者など80人が参加し、東京の新規就農の状況について研究した

動向や農地制度に関する報告が行われました。

全国新規就農相談センターで相談員を務める五十嵐建夫氏は、全国の新規就農者の動向や東京の新規就農者の特徴について報告しました。

日頃、相談活動を通じて様々な就農希望者と接している五十嵐氏は、時代を反映して若者が農業に求めるものも変化しているが、いずれにせよ家族と話し合った上でしっかりと準備を進めることが大切だと話しました。

また都農業会議より、東京で新規就農するため知っておかなければならない農地制度のルールなどについて説明をしました。

後半は、東京で実際に就農した非農家出身の若者たちを発表者として迎え、パネルディスカッションを開きました。

アグリタウン研究会副座長の井原満明氏がコーディネーターをつとめ、発表者から就農までの経緯などについて話を聞きました。

発表したのは、平成21年に瑞穂町で就農して野菜を生



瑞穂町で就農した井垣貴洋さん（右）美穂さん（左）夫妻

産している井垣貴洋さん、美穂さん夫妻、そして、平成22年からあきる野市でブルーベリーを栽培している中山喜一

東京都農業経営者クラブが インドの野菜経営など視察

恒例の海外農業事情視察を実施

東京都農業経営者クラブ（石川清会長）は11月下旬、6日間の日程でインド農業事情視察を実施しました。

この視察旅行には、都内の6区市から女性4人を含む14人の農業者が参加しました。

デリー郊外では薬草などを栽培するラム・バグ農園を見学しました。デリーで薬品会社を経営するオーナーが持つ農園で、有機栽培で薬草類や野菜が栽培されています。

ジャイプールでは、年間を通じて約40種類の花き類を

郎さん、平成22年に青梅市で就農し野菜を生産している柳川貴嗣さん、平成22年に瑞穂町で就農しブルーベリー栽培をはじめた鈴木利喜恵さんの4組です。

それぞれ就農の動機は様々ですが「農業は魅力的な仕事」と話し、東京での就農を実現するまでの経緯について発表しました。

会場からは、就農を希望する参加者などから「売り先を確保すままでにどのような苦労をしたか」といった具体的な質問をはじめ、農業者や行政

生産するマンタナーセリーを見学しました。ここでは栽培した花を市場などには出荷せず、すべて農園を訪れる客に直売しています。その意味では、都市農業と呼べるような経営形態でした。

また、さらに農村部へ移動して酪農家も訪問しました。80歳ながら頑健そのもののハヌマーンさんは、搾乳牛20頭を飼養し、周囲の畑では飼料用の粟と食用の小麦を二毛作で栽培していました。

また、タージマハルで知られる都市アグラでは、公

関係者からも意見などが出され、予定の終了時間を超えて議論する内容の濃いフォーラムとなりました。



瑞穂町で就農した鈴木利喜恵さん（左）、青梅市で就農した柳川貴嗣さん（中央）、あきる野市で就農した中山喜一郎さん（右）

設の青果市場を見学することができました。

短期間にデリー、ジャイプール、アグラの3都市を巡る急ぎ足の行程でしたが、いま世界から注目されているインドにおいて、現地の農業と文化に触れる貴重な視察となりました。



インドの有機栽培を見学する参加者

農業者と消費者で「食と農セミナー」開く

東京都農業経営者クラブ

東京都農業会議

東京都消費者月間実行委員会

都農業会議は、このほど、東京都消費者月間実行委員会（笹浪真智子委員長）および東京都農業経営者クラブ（石川清会長）との共催で「食と農セミナー」を開きました。

これは、農業者と消費者が交流を深めることを目的に実施され、約100人が参加しました。

当日は、農政ジャーナリストの中村靖彦さんを講師に迎え「日本の食糧が危ない！農業者と消費者がともに歩む道」と題する講演を行いました。

中村さんは、TPP交渉参加問題について「参加反対」と話し、TPPを巡るこれまでの経緯や問題点について、食品表示や韓国の状況などに触れながら、説明しました。

また講演終了後には、農業者と消費者の意見交換会を行い、消費者からは農産物に使用する農薬に関する質問などが出され、農業者が丁寧に答えていました。

参加した消費者からは「実際に話しを聞くと農家の苦

労がよく分かる。今度は見学に行きたい」と話していました。



TPP交渉参加に「反対」と話す中村靖彦氏

市民が身近な農業を再発見

羽村市農業委員会が農ウオーク開く

羽村市農業委員会（宮川修会長）は、このほど「農ウオークイン羽村」を開きました。

この取り組みは身近な農業を市民に知ってもらうことを目的に実施され、市民など42人が参加しました。

当日は、農家の阿部任宏さん、宮川篤さん、宮川修さんなどの協力を得て、野菜の植付け体験などを行いました。

参加者は「玉ねぎの植付

東久留米市の農業を都内の消費者が見学

「がんばる農業応援バスツアー」開く

都農業会議は、このほど、

東京都消費者月間実行委員会（笹浪真智子委員長）および東京都農業経営者クラブ（石川清会長）との共催で「東京のかんばる農業応援バスツアー in 東久留米」を開きました。

これは、消費者が都内の農業を見学し、東京の農業を

TPPがおよぼす島内農業への影響を研究

八丈町農業委員会などが勉強会開く

八丈町と同町農業委員会（土屋博会長）は、ふるさと東京むらづくり塾（波多野重雄塾長）と共催で、TPPに

関する勉強会を開きました。講師に淵野雄二郎東京農工大学名誉教授を招き「TPPが及ぼす八丈農業への影響」と題する講演が行われ、世界の食料事情や自給率などの視点からTPPの影響について説明しました。

援することを目的に、36人が参加しました。

当日は、東久留米市で原栄一さんのホウレンソウ生産、秋田親安さんと雅宏さん親子の果樹経営、また、篠宮仁一さんのトマト生産や海老沢市郎さんの花き経営を見学しました。

参加者は「都内では野菜や



タマネギの植え付けについて説明する宮川修農委会長（右）



講演会では、TPPの影響について、世界の食料事情や自給率などの視点から学んだ



原栄一さんのハウスで野菜の収穫を体験する参加者

1月～3月の日程

- 1・17 (火) 常任会議
- 2・6 (月) 組織・活動研
- 2・9 (木) 農委会活動研
- 2・14 (火) 組織・活動研
- 2・17 (金) 常任会議
- 2・29 (水) 第53回農業委員 農業者大会
- 3・7 (金) 主任職員協議会
- 3・16 (金) 第110回通常 総会／常任会議

◇冬期地区別検討会◇

- 1・18 (水) 島しょ
- 1・20 (金) 南多摩
- 1・23 (月) 区内
- 1・24 (火) 北多摩南部
- 1・26 (木) 北多摩北部
- 1・27 (金) 北多摩西部
- 1・31 (火) 西多摩